

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原345-15		
自己評価作成日	平成30年2月14日	評価結果確定日	平成30年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成30年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の「長生きしてよかった」と思ってもらえる介護、を標榜し16年の歳月を経て参りました。様々な実践を通じてご利用者様の日々の穏やかな暮らしの支えとなり、生き甲斐を感じて頂けるよう研鑽して来ましたが、介護を提供する側からの一方的な思いではなく、利用者と共に支えあう仕組みが定着しつつあるように感じます。今後も質の高い職員の教育や地域との連携を通じてより一層の研鑽を目指します。平成30年2月1日に新しい施設が完成し移転致しました。以前より整備された介護環境において前記の目標を達成すべく努力致します。また、池尻小学校と13年間の交流を通じて、来る3月5日に卒業プロジェクトとして車いすの寄贈を受ける事となりました。世代間・地域間の交流が実を結びつつある事例として喜んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨今、新築移転したいいきいきハウス池尻は、入居者や家族へのケア目標の職員の心構えを毎朝唱和し、理念の実践に努めている。全盲の入居者の歩きたいの思いを叶え、手引きでトイレや散歩など支援したり、入居当初透析治療が間近と予測されていた入居者は、かかりつけ医、ケアマネージャー、職員と協議した支援で、4年間透析をしなくて済ませている。管理者は、何よりも心の資格を持った職員の成長は入居者達とのかわりやで遂げられると人材育成に努めている。又、小学校との七夕交流会は継続予定で、新築のホームの棟上げにお披露目を兼ねて地域の方を招待し、餅拾いで賑わっている。今後は、敷地内の小規模事業所とともに地域の方との交流が広がるように、認知症カフェ開設を行政と相談していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **いきいきハウス池尻**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を玄関に掲示しており、また、ケア目標を毎朝呼称し、職員への周知をしている。	理念の確認のため、入居者や家族へのケア目標の職員の心構えを毎朝唱和している。一声掛け合うことで、入居者だけでなく職員間も良好なコミュニケーションをと、家庭的な雰囲気を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政区や隣組との付き合いを生かし、地域交流できるように取り組んでいる。近隣の小学校との七夕交流会や地域の敬老会、神幸祭の神輿・獅子舞の来訪もあり、事業所としての地位を築いている。	小学校との七夕交流会は継続予定で、新築のホームの棟上げにお披露目を兼ねて地域の方を招待し、入居者とともに餅拾いで賑わっている。今後は、敷地内の小規模事業所とともに新しい展開をしていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の転倒防止教室では、役場の保健師の講義に合わせて、高齢者の体動の特性について事例を述べることもあり、今後も認知症の特性などの発表の機会を伺い参加したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見について適切に対処し、改善や工夫を行い、運営に生かしている。	民生委員や行政区の組長、家族、行政職員などの参加で定期的開催され、議事録を整備し、新しいホームの玄関で公表の予定である。新築移転については、運営推進会議で随時報告して進めてきた。	移転した行政区を交えた運営推進会議のより活発な地域交流に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談が頻繁に行われており、行政の訪問や要請も多々ある。	町の要請で入居された方もあり、家族事情で代表者と町職員の協力体制で対応することが多い。認知症カフェ開設を行政と相談していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束も含めた介護周辺の知識が浅い職員が多い為、日々のサービス提供の折や座学にて理解を深める実践を行っている。「待つて」や「忙しい」と対応するのではなく、一旦手を止めて対応するようにしている。	職員たちは常に拘束を意識して「待つて」や「忙しい」と言わず手を止めて入居者と向き合う支援に努めている。同じソファに座らせておくことも拘束に当たると、みんなと同じ輪の中に座らせるなど若い職員が入居者に声かけや対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	相互監視による報告を義務化し、密室介護にならないよう細心の注意、情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での習熟チェックを行い、権利擁護の気持ちが浸透するようにしている。	家族関係の多様性で止む無くケースワーカーに関与してもらいながら、代表者が2名の入居者の後見人代わりを勤めている。日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用も経費がかかることを含め、制度の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し、納得いくまで確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望は、出しやすい雰囲気でごちからからお尋ねもし、責任者へ必ず伝達されるようにしている。	入居者や家族にホームの移転の報告や棟上げなどその都度関わっていただいている。「慣れたところがいい」と言っていた入居者たちも、移転して1ヶ月にもならないが新しいホームに馴染み、家族の訪れもありほっとしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の気づきなどを申し送りノートを活用して、全職員が共有している。内容を確認し捺印することで、全職員が把握したかを確認している。運営者や管理者は、日頃から職員の意見を聞く機会を設けている。	全盲のため外出が難しい入居者も、イチヨウを見に一緒に出かけ、イチヨウの葉に触れて、参加者全員で写真に納まっている。その写真を見た家族が参加できたことを喜ぶ様子は、職員たちのいっそうの励みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐のある職場作りを行っている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は公平である。ハローワークやパコラで職員を募集しており、性別や年齢、資格にこだわらず、人間性で採用をしている。社会参加や自己実現の取り組みを今後充実させたい。	ハローワークやパコラで公募し、無資格で公平に採用しているが、何よりも心の資格を重視し、日頃から職員の成長は入居者達とのかかわりで遂げられると管理者は人材育成に努めている。入社後資格取得すれば賃金にも反映される。夜勤専従職員を法人全体で10名雇用し、ケアが途切れないように月1回管理者と面談している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を通じて行うほか、外部セミナーの開催があれば活用しながらサービス提供に生かしたり、実践状況の把握に努めている。	県の研修に参加した職員が伝達講習を行ったり、外出は全盲の方も一緒になど、日頃から人権に配慮した支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者の就業者も多く、研修はマニュアルを作成して習熟度の応じた取り組みを行っている。社内研修のほか、外部研修も利用している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修会で知り合った施設や職員と情報交換が行われている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを通じて、詳細に情報把握を行っている。表面的なことではなく真のニーズを掴むよう、職員の気づきが重要なポイントと認識している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを通じて適切に行っている。特に言いにくいことがないか、投げかけを大切にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスの利用が第一優先である、という認識の下でニーズの確認を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相性や人間関係にあわせた仲間わけや席決めなどでアットホームな関係を築いており、協力しながら、支えあいながら、ともに暮らす、という雰囲気ができている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用開始当初から、協力を要請し、家族の関与を引き出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援を得て、本人の意思を尊重している。	家族や友人が、気楽に訪れている。透析が間近に迫っているにも関わらず、友人に食べ物の差し入れを依頼していた入居者もあったが、管理者の病状の悪化を心配した真摯な説明を受けて、本人の自覚もあり、透析をせずに4年間が経過している。選択したおやつを持参して家族や友人の訪れは今も続いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独にならないよう、共同作業や日々のレクリエーションなど支えあいを演出できるシーンを大切にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折々訪問するなど、安否確保に努めている。年間カレンダーは毎年届けて、関係が途切れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じて安心して穏やかに過ごせるように把握に努めている、初期アセスメントを継続し、生活基盤作りを優先させ、本人本意の把握に努めている。	入居者の残された能力を大事にの思いを全職員で共有し、更なる意向の把握に取り組んでいる。全盲の入居者の自分で歩きたいとの思いを、職員は手引きや身体を支えるなどで支援している。外出できるようになり、明るくなったと職員も喜んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前段階での情報収集や、関係者からの聞き取りを通じて、本人本意に行われている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する心身状態や健康管理面の情報を適切に分析し、個々人に合わせた支援に繋げている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを適切に行い、モニタリングを通じて現状ニーズの把握をし、最適の計画を作成、実行している。	個別のニーズの把握や計画は職員やケアマネジャー、管理者で検討し、実行、評価に繋がっている。入居当初は血糖のコントロール不良で透析が間近と予測されていた入居者は、かかりつけ医、ケアマネジャー、職員と協議し、水分制限やおやつはノンシュガーの飴を選択するなどの支援で、4年間透析をしないで過ごせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有・計画の見直しについては、職員間の連携がとれており、適切に行われている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	場合によっては、外部サービスの利用を検討したり、アイデアや業務改善により、柔軟に取り組む姿勢がある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や商店街等の催事の活用など、積極的に取り組みされている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、希望の医療機関への受診が行われている。	入居以前のかかりつけ医受診もできるだけ職員が支援している。協力医療機関の受診は職員が対応し、往診も可能だが、定期的な看護師による健康チェックもあり往診に至ることはない。受診や入院時日頃の健康チェック記録が添書として活用されている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の把握は、日々観察の中、カンファレンスの際に、ともに情報の共有を行い、適切に医療機関に繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けての取り組み、また、入院中のメンタルケア等、豊富に取り組んでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時での希望を元に、状態変化時において、ご家族・本人の希望を踏まえた方針を示すことにしている。	入居時に看取りの意向確認を行っているが、現状では転倒や急変など有り得ることを確認している。家族が病院へ運んでくださいと希望され、看取りは病院で行われている。今後も本人や家族の意向を確認しながら取り組んでいくと管理者は話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて、各職員の能力に応じた訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政区の避難場所への誘導時において、地域住民への協力を要請している。	緊急通報システムの点検を行い、年2回避難訓練が行われている。今後は地域の避難場所を確認し、隣接の小規模事業所と合同で地域住民の協力を得ながら避難訓練を行っていく予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者へは敬語で接することを基本に、尊重する姿勢で臨むよう指導を行っている。	若い職員は敬語で対応している。塗り絵をしていた入居者の「終わったヨ」と声かけに、「ご苦労さん」と応えたり、調理の味付けが美味しい、塩が少ない等の言葉にも笑顔で「今度教えて」と若者らしい対応が行われていた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みの食材の調査を行ったり、今日の食べたいものに合わせたメニュー変更など柔軟に行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを示しているため、ある程度は施設の決まりの沿って行動しているが、利用者がこうしたいという希望の表出は見逃さず、さりげなく促すなど、希望を叶える行動をとっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択ができる取り組みを行っている。服は自分で選んでいただくほか、整髪や身だしなみ等には気を配っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の自発的な行動を尊重しながら、食事に対する関わりを持たせるよう支援を行っている。下膳やテーブル拭き、食器・レイ拭きをお願いする利用者もいる。誕生日会では本人希望の食事メニューにしている。	日々の会話の中から麺類、赤飯、ちらし寿司、てんぷら、茶わん蒸しなどがリクエストされ、誕生日には、希望のサンドウィッチをケーキ飾りにしたりしている。職員が作った調理に美味しいや塩気が足りないなど入居者から率直な意見が飛び交ったり、入居者が自然に盛付け、食器のかたづけ、テーブル拭きをしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のバランス、摂取量の把握を通じて、医師とも相談をしながら行っている。水分は1600cc/日を目安に年間通じて取り組んでいる。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として自発的にケアができており、利用者に合わせた内容で行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活支援の中の重要な活動と捉え、支援促進を積極的に行っている。排泄パターンに応じた声かけや誘導を行っている。	尿意や便意が不明瞭な入居者も基本はトイレでの排泄を支援している。尿意のある全盲の入居者は手引きで、トイレ介助のすぐ後もトイレと言われるとすぐに介助したり、自力でトイレに行かれる入居者も職員が見守りをしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との連携の中で、主体的に取り組んでいる。特に食物繊維奨励、運動、水分の把握に努め、自然排便を促すよう取り組みしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の日時は決まっているが、希望に合わせて柔軟に対応している。	1日4.5名ずつ週3回を目途に入浴支援されている。随時のシャワー浴も可能で一人ずつゆっくり入浴介助が行われている。介助を行う際は入居者を一人にしないように、物品の準備を入念にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠への過程で、安らぎを持たせる支援を行って、安眠が確保できるよう、取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬手帳を職員が管理し、症状を医師に伝えることにより、症状の把握と服薬確認ができるようになっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の性格を活かした支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は計画的に行っている。地域行事や花見のほか、買い物、また日課としてホームの愛犬チャオと一緒に周辺を散歩している。	秋のイチョウ見学に全員で参加して以来、外出の企画が楽しみと入居者も職員も喜んでいる。調査日は小春日和でかわるがわる散歩に出かけていた。いつも散歩と一緒に出かける愛犬チャオも、新しい小屋を与えられ、新居が気に入って寝そべっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持することはほとんどないが、施設の買い物に出かける際、利用者が支払い、計算することを支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	折々の時候の挨拶を、はがきや手紙で行えるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出せるよう、利用者と工夫して行っている。	玄関から正面に廊下が見渡せ、中ほどに対面式の厨房があり、広い吐き出し窓の共用空間は明るく気持ちよい光が注いでいる。厨房前の3つのテーブルや椅子、前のホームから持ち込まれた明るい色のソファに座り、馴染んだ様子の入居者たちが寛いでいる。可愛い蛙の加湿器が程よい空調を管理している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を仕分ける工夫をしたり、ソファへの利用を勧めたりしながら居心地の良い工夫を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持ち込んでもらっており、居室の工夫はご家族とともに行っている。各居室入口には、大きく利用者名が掲示され、居室間違いを防いでいる。	入居者の目線に合わせて引き戸にやさしい色使いの名札が張られ、1名の入居者を除いて部屋間違いはない。クローゼット、ベット、こじんまりした筆筒や物入れなどが置かれ、清潔で居心地よく過ごせている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は見守りに徹し、利用者の自立主体で支援を行っている。		